



芝山小だより

5月号

清瀬市立芝山小学校

校長 佐藤 強

<http://www.kiyose.ed.jp/>

一期一会 ～60年目の授業～

校長 佐藤 強

新緑に包まれた清々しい季節を迎えました。早いもので、新年度がスタートしてから1ヶ月程が過ぎました。

最近、とてもうれしい再会をしました。「私は先生の教え子です。」と、笑顔で声をかけてくださったご婦人がいます。名前を伺ってもすぐには思い出せず大変失礼をしてしまいました。四半世紀の時を経ての再会、会話を重ねる中で当時の様子が蘇りました。数分後には、当時のお顔と名前が完全に一致しました。立派に成長した姿から、喜びと勇気をいただきました。

教え子との再会で、教育の原点を見つめ直すような、とても感動的な話を思い出しました。概要を紹介させていただきます。



ある地方都市で、「60年目の授業」というタイトルの公演会が行われました。出演したのは、日本新劇俳優協会会員のNさんとNさんの小学校の恩師であるK先生。内容は、朗読や思い出を振り返るトークが中心で、真心がこもった手作りの雰囲気、そして質の高いものだったそうです。

約60年前、小学校4年生だったNさんの担任が、新任教師のK先生でした。4月のある日、Nさんは家庭の事情で転居することになりました。新しい学年が始まったばかりの突如の転校でした。K先生から学んだのは、わずか10日間ほどでした。Nさんが寂しさを感じながら、新しい学校に通い始めたころ、K先生から手紙が届きました。

「学校でお友達はできましたか？算数はどこをやっていますか？」

幼心に感動を覚えたNさんは、K先生と手紙で交流を続けました。また、直接会う機会もあったそうです。

その後、Nさんは、小学校教員として社会人となりました。さらに、幼少の頃から父親に育まれた文化の大切さを認識し、新劇俳優になりました。舞台、テレビ、映画の仕事や、北は北海道から南は沖縄まで、さらに海外でも公演を行いました。K先生は、時間の許す限り、Nさんの初舞台から観劇に訪れていたそうです。

時を経て、Nさんは、要請を受け、再び小学校の教員になりました。“文化と教育の大切さを訴えたい”と、恩師であるK先生に声をかけ、今回の故郷での公演「60年目の授業」が実現したそうです。当日、会場にはNさんの同窓生や、K先生の教え子など、多くの人が集まりました。NさんはK先生との思い出を語り、「私だけでなく、本当に一人一人を大切にされる先生でした」と。

K先生は、「特別なことをしてきたわけではありません」と、一期一会の心で教育の道を駆けてきた心情を語りました。「卒業や転校など、必ず“別れ”があります。だからといって、それで『さようなら』ではありません」と。成長していく教え子たちを見守り、子供たちから喜びと勇気をもらうのが、教師冥利に尽きると断言します。

Nさんは、学生時代の恩師から聞いた言葉が、今も心に残っているそうです。

「あなたたちがつく“教育”という仕事は、すぐに結果がでるものではありません。30年後に出るか出ないかです。」



わずか「10日間」という短い出会いが、NさんとK先生にとっては、生涯の絆を結ぶことになりました。K先生は、Nさんをそっと見守り続けてきたのでしょう。長い時を経て、教育の大輪が咲き誇っているような感動的なお話です。私も、教え子との再会を教訓として、K先生のような一期一会の心で子供たちの成長を見守り続けていきたいと気持ちを新たにしました。